

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	2015年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愉媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思い大切にし、日々の暮らしの中で楽しみや役割を見つけて支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎える事業所は、利用者の加齢と身体機能低下に伴い事業所で最期を迎えた人や特養への住み替え等で半数の方が入れ替わっている。利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができるよう職員全員が支援に取り組んでいます。管理者は職員が育てば利用者に優しく介護の質も上がると思っており、職員教育に力を入れている。職員はユニットリーダーを中心に明るく仲が良くコミュニケーションが取れており、月単位でユニット毎に目標を掲げ職員全員で実践に取り組んでいる。職員は「ケアマネジャーの資格を取りたい」、「医療的な勉強をして知識を深めたい」との向上心に加え、今まで以上に利用者が自分の家で過ごしているようなグループホームにしたいと意欲を持ってケアに当たっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でプラスアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!  
  
—サービス向上への3ステップ—

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 大地

記入者(管理者)

氏 名 八雲美恵子

評価完了日 平成27年6月5日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 利用者の思いを大切にし、利用者・地域住民・職員同士信頼関係を築けるように日々努力している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 開設時に作成した理念は2年目に職員全員で話し合い、具体性を持つ内容に見直し現在まで継続している。新入職員は先輩が業務内容や理念について指導し、また月1回の職員会で理念について話し合い、職員全員が共有して日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、地域清掃や町内行事に利用者と共に積極的に参加している</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所は町内会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。町内清掃に参加したり、公民館で認知症について講義を行うなど、グループホームの理解を深めている。秋祭りは事業所に神輿が入り利用者と一緒に見学し楽しんでいる。地域の住民が野菜や果物を差し入れ、子供が七草を届けてくれる。また高校生のボランティアを受け入れるなど地域と交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 地域の人達や民生委員からの相談などに出来る限り支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p><b>(自己評価)</b> ホームでの状況や取り組みを報告し、問題点など意見交換を行いサービス向上に努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者の参加を得て開催している。事業所の状況報告をもとに意見交換を行っている。また地域の情報提供や民生委員から相談を受けて話し合いを行っている。会議で出された意見はサービス向上に活かしていけるよう努めている。</p>	
4	3	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 松山市の担当者や包括支援センターとは良い関係を築けるように努力している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 市職員と地域包括支援センター職員は毎回、運営推進会議に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターが中心となり年4回開催されるケアネット連絡会や、グループホーム連絡会に参加している。また利用者の紹介や事業所から後見人問題の相談を行うなど、何かあればすぐに相談できる協力関係ができる</p>	
		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束をしないケアについて、日々話し合いを行い勉強会も行っている</p> <p><b>(外部評価)</b> 身体拘束については年に1回、厚生労働省からアンケート調査があり職員全員で身体拘束について話し合う機会としている。拘束の基準についてあいまいな行為やことばなどについて管理者より具体的に説明したり、外部研修に参加して他職員に周知を図るなど、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘縮や床ずれのある利用者は、かきむしるなどの行為があり医療的な治療や介護の工夫をしたが改善がないため、関係者が話し合い時間限定でつなぎ服を着用した事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごさされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や職員会などで、虐待防止について勉強し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人を活用されている利用者がおり、関係者ともよく話し合いを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をかけ、理解・納得出来るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、家族の意見や要望を言いやすい環境を整備しており、サービスの向上に努めている。  (外部評価) 利用者の日頃の様子や会話の中で出たことばなどから意見や要望を把握し、職員間で共有している。また、面会時に職員から声をかけて話しやすい雰囲気を作り、家族から意見や要望を聞くよう努めている。事業所は家族の面会や外出について重要事項に取り上げ、家族との信頼関係作りや意見を聞く機会として大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 職員会や個人面談で意見・提案を聞く機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<b>(外部評価)</b> 管理者は年に2回、個人面談を実施して職員の意見を聞いている。また日頃から話しやすい雰囲気をつくり、職員から出された業務のアイディアや提案を大切にしている。そのアイディアや提案が職員のモチベーションアップにつながり、業務に生かせることを期待している。職員はユニットリーダーに、リーダーは管理者に相談し、解決できない場合は月1回の管理者会で提案し改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<b>(自己評価)</b> 研修や勉強会に積極的に参加できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<b>(自己評価)</b> グループホーム交流会や近隣のグループホームと共同で年1回程度勉強会を行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> 入居前には必ず面談を行い、時間をかけて本人の話を聞くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族とよく話し合い協力し合えるように、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、出来ることを見つけホームで暮らしていく喜びを感じてもらえるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への報告・連絡・相談を密にし、協力し合って支援していくように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の要望により、馴染みの人達との関係が途切れないように支援している。  (外部評価) 利用者の同級生が訪ねて来たり、以前通っていたデイサービスの方が来てくれることもある。面会時はゆっくり過ごせるよう配慮し、家族に報告するなど馴染みの継続支援に努めている。法人内グループホームとの交流や移動スーパーが来るのを楽しみに待つなど、日々の生活の中で馴染みの関係が広がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士協力し合えるように、努力している。	
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援をしている。	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位になるように支援し、全職員が共通認識出来るよう努力している。  (外部評価) 職員は日々の生活の中で利用者に寄り添いゆっくり話を聞き、利用者一人ひとりの思いを受け止め大切にしている。思いや意向の把握が困難な利用者は日頃の様子で推測したり、職員が準備した中から選択してもらうなど工夫している。また、家族から情報を得るなど利用者の希望や意向の把握に努めている。	
23	9	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や前ケアマネからの情報を基に把握に努めている。	
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録を密にして状況の把握に努めている。	
25				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 定期的ケアカンファレンスを行い、急なレベル低下にも随時状況に即した話し合いをするようにしている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<b>(外部評価)</b> 介護計画は今困っていることやこれまでの情報を考慮して、事業所での生活に慣れてもらうことを重要課題として作成している。3か月に1回見直しを行っている。事前に声をかけて家族の意見を聞き、職員全員参加でカンファレンスを行い利用者の思いに沿った計画書となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<b>(自己評価)</b> 日々個別記録に記入し、実践や見直しに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の要望により、適切な医療が受けられるように支援している。  (外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続している。利用者や家族の要望で往診医に移行したり、身体機能低下で家族の支援が困難になり往診医に移行する利用者もいる。皮膚科など専門医は家族対応で受診している。診療後の情報は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の体調の変化や気づきを、看護職と相談しながら適切な対応が出来るように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは情報交換や相談を行うように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については、入居時に説明し、早い時期から話し合いを行い出来る範囲の説明をしている。  (外部評価) 看取りについては入居時に事業所でできること、できないことを説明して理解を得ている。利用者の身体機能低下で車いすが必要になったとき、再度利用者や家族から看取りについて要望を聞いている。状態に応じて医師、看護師など関係者を交えて検討するなど、利用者や家族が安心して最期が迎えられるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 職員は定期的に訓練を行い、冷静に対応出来るように努力している。	
34			<b>(自己評価)</b> 災害マニュアルを作成し、定期的に訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いていく	<b>(外部評価)</b> 年に2回、台所を火元とした消火訓練・避難訓練を実施し、内1回は消防署立会いのもと実施し指導を受けている。地震対策は耐震構造の建物であるため、移動する方が危険が大きいことから1階の駐車場を避難場所としている。地域住民に参加を呼びかけているが見学にとどまっている。備蓄品として水、食料品、ガスコンロを用意して緊急時に備えている。	火災訓練を年に2回実施しているが職員だけでの対応には限界があり、特に夜間はユニット毎に職員1名の配置となっており地域住民の協力が欠かせない。運営推進会議で議題に上げて話し合うなど、地域の協力体制構築の取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援</b>				
			<b>(自己評価)</b> 排泄・入浴介助など利用者の状況に応じた声掛けを心がけ、人格を尊重した対応が出来るように対応している。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(外部評価)</b> 耳の遠い利用者には大きな声で話さず、耳元で声をかけるなど配慮している。居室に鍵をかける利用者には見守りを行い、居室で過ごしているときは静かに見守り個人の空間を大切にしている。排泄や入浴時は羞恥心に配慮した対応を心がけ、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 本人の希望を暮らしの中で自己決定出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<b>(自己評価)</b> 日々の日課の中で出来るだけ本人の自由を優先し、希望に添えるように支援している。	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 本人の好みを優先しながら、季節にあった身だしなみが出来るように支援している。	
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 食事のメニューと一緒に考えたり、野菜の皮むきや食器の片づけなど出来ることをしてもらっている。  <b>(外部評価)</b> 日頃の利用者との会話の中から好みを把握し、調理をする職員が献立に取り入れている。利用者の誕生日には希望メニューとし、筍やわらびなど季節の食材を取り入れている。また刻み食やブレンダーなど利用者の状態に合わせて食事形態に配慮している。春と秋には外食を楽しみ、調理の下ごしらえや下膳、食後の皿拭き等利用者のできることを行っている。食事は職員も一緒にテーブルを囲み、話をしながらゆっくり食べることができている。	
40	15	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 栄養バランスを考えて献立をたて、水分も無理なく取れる工夫をしている。	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後口腔ケアを全利用者に促している。1年に1回歯と口腔の健康チェックをしている。	
42				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p><b>(自己評価)</b> 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・トイレ誘導・オムツ交換をしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 排泄チェック表を記録し利用者一人ひとりに合わせて排泄を支援している。夜間のみオムツを使用するなど利用者の状態に合わせて対応している。尿・便意の改善は難しいが、声をかけてトイレ誘導してトイレでの排泄を大切に支援している。</p>	
43	16	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 便秘が及ぼす影響を理解し、献立を工夫したり、1人ひとりに合った水分確保に取り組んでいる。</p>	
44		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p><b>(自己評価)</b> 利用者の希望に出来るだけ沿うように支援している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 入浴は週に3回を基本としているが、毎日入りたい利用者にも対応できる。利用者の好みのシャンプー等を揃えている。浴室は個別浴槽でシャワーチェアを設置し利用者の体調に合わせて使用している。入浴の苦手な利用者は職員が代わって声かけやタイミングに気を配り、気持ちよくお風呂に入れるよう努めている。</p>	
45	17	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p><b>(自己評価)</b> ホームの日課ではなく利用者各自の体調や意思を尊重したケアを行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<b>(自己評価)</b> 職員は処方箋等で勉強しており、服薬の支援・症状の変化にも対応するようにしている。	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<b>(自己評価)</b> 日々の生活の中で利用者の気分転換したり、役割が見つけられるように支援している。	
48		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応している。  <b>(外部評価)</b> 散歩や買い物に行くよう声かけするが、室内でゆっくり過ごすことを好まれる利用者が多く、出かける機会が少なくなっている。家族の協力で利用者と一緒に買い物や食事に出かけることもある。春と秋には外食に出かけたり、季節の花見に出かけている。事業所玄関に移動スーパーが来店した時は、賑やかに買い物を楽しんでいる。	
49	18	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<b>(自己評価)</b> 移動スーパーなどで買い物を楽しめるように支援している。	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<b>(自己評価)</b> 本人の希望により支援している。	
51				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 季節感や生活感を取り入れた居心地良い空間を工夫している。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(外部評価)</b> リビングは窓が大きく明るく、畳コーナーを設け家庭的な雰囲気がある。中央に調理場があり職員は全体を見ることができ、利用者は自由に行き来して安心して過ごすことができている。廊下には利用者と一緒に作成した季節の壁画やクラフトを多数飾りつけしている。また利用者のできることを見守りながら一緒に掃除を行い、清潔な環境の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<b>(自己評価)</b> 利用者同士で過ごせるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(自己評価)</b> 利用者の使い慣れた家具や物を持ち込んで本人の居心地の良い工夫をしている。  <b>(外部評価)</b> 居室は電動ベッド、エアコン、クローゼット、整理タンスが常備されている。利用者の好みの毛布やタオルケットを持参して使用し、また使い馴れたタンスや化粧水・仏壇などを持ち込み、利用者一人ひとりに合わせて配置し安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<b>(自己評価)</b> 利用者の自立を妨げないように見守りや声掛けを行う工夫をしている。	

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成27年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思い大切にし、日々の暮らしの中で楽しみや役割を見つけて支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎える事業所は、利用者の加齢と身体機能低下に伴い事業所で最期を迎えた人や特養への住み替え等で半数の方が入れ替わっている。利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができるよう職員全員が支援に取り組んでいる。管理者は職員が育てば利用者に優しく介護の質も上がると考えており、職員教育に力を入れている。職員はユニットリーダーを中心に明るく仲が良くコミュニケーションが取れており、月単位でユニット毎に目標を掲げ職員全員で実践に取り組んでいる。職員は「ケアマネジャーの資格を取りたい」、「医療的な勉強をして知識を深めたい」との向上心に加え、今まで以上に利用者が自分の家で過ごしているようなグループホームにしたいと意欲を持ってケアに当たっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの ○ 3. 利用者の1/3くらいの ○ 4. ほとんど掴んでいない	63	○ 1. 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある ○ 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある ○ 4. ほとんどない	64	○ 1. 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	65	○ 1. 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	66	○ 1. 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	○ 1. 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	68	○ 1. 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはできません。

#### ※用語について

- 家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でプラスアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名 (ユニット名)	グループホーム元気家 太陽
記入者(管理者) 氏 名	八雲美恵子
評価完了日	平成27年6月5日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 利用者の思いを大切にし、利用者・地域住民・職員同士信頼関係を築けるように日々努力している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 開設時に作成した理念は2年目に職員全員で話し合い、具体性を持つ内容に見直し現在まで継続している。新入職員は先輩が業務内容や理念について指導し、また月1回の職員会で理念について話し合い、職員全員が共有して日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、地域清掃や町内行事に利用者と共に積極的に参加している</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所は町内会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。町内清掃に参加したり、公民館で認知症について講義を行うなど、グループホームの理解を深めている。秋祭りは事業所に神輿が入り利用者と一緒に見学し楽しんでいる。地域の住民が野菜や果物を差し入れ、子供が七草を届けてくれる。また高校生のボランティアを受け入れるなど地域と交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 地域の人達や民生委員からの相談などに出来る限り支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p><b>(自己評価)</b> ホームでの状況や取り組みを報告し、問題点など意見交換を行いサービス向上に努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者の参加を得て開催している。事業所の状況報告をもとに意見交換を行っている。また地域の情報提供や民生委員から相談を受けて話し合いを行っている。会議で出された意見はサービス向上に活かしていけるよう努めている。</p>	
4	3	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 松山市の担当者や包括支援センターとは良い関係を築けるように努力している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 市職員と地域包括支援センター職員は毎回、運営推進会議に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターが中心となり年4回開催されるケアネット連絡会や、グループホーム連絡会に参加している。また利用者の紹介や事業所から後見人問題の相談を行うなど、何かあればすぐに相談できる協力関係ができる。</p>	
		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束をしないケアについて、日々話し合いを行い勉強会も行っている</p> <p><b>(外部評価)</b> 身体拘束については年に1回、厚生労働省からアンケート調査があり職員全員で身体拘束について話し合う機会としている。拘束の基準についてあいまいな行為やことばなどについて管理者より具体的に説明したり、外部研修に参加して他職員に周知を図るなど、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘縮や床ずれのある利用者は、かきむしるなどの行為があり医療的な治療や介護の工夫をしたが改善がないため、関係者が話し合い時間限定でつなぎ服を着用した事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごさされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や職員会などで、虐待防止について勉強し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人を活用されている利用者がおり、関係者ともよく話し合いを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をかけ、理解・納得出来るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、家族の意見や要望を言いやすい環境を整備しており、サービスの向上に努めている。  (外部評価) 利用者の日頃の様子や会話の中で出たことばなどから意見や要望を把握し、職員間で共有している。また、面会時に職員から声をかけて話しやすい雰囲気を作り、家族から意見や要望を聞くよう努めている。事業所は家族の面会や外出について重要事項に取り上げ、家族との信頼関係作りや意見を聞く機会として大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 職員会や個人面談で意見・提案を聞く機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<b>(外部評価)</b> 管理者は年に2回、個人面談を実施して職員の意見を聞いている。また日頃から話しやすい雰囲気をつくり、職員から出された業務のアイディアや提案を大切にしている。そのアイディアや提案が職員のモチベーションアップにつながり、業務に生かせることを期待している。職員はユニットリーダーに、リーダーは管理者に相談し、解決できない場合は月1回の管理者会で提案し改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<b>(自己評価)</b> 研修や勉強会に積極的に参加できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<b>(自己評価)</b> グループホーム交流会や近隣のグループホームと共同で年1回程度勉強会を行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> 入居前には必ず面談を行い、時間をかけて本人の話を聞くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族とよく話し合い協力し合えるように、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、出来ることを見つけホームで暮らしていく喜びを感じてもらえるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への報告・連絡・相談を密にし、協力し合って支援していくように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の要望により、馴染みの人達との関係が途切れないように支援している。  (外部評価) 利用者の同級生が訪ねて来たり、以前通っていたデイサービスの方が来てくれることもある。面会時はゆっくり過ごせるよう配慮し、家族に報告するなど馴染みの継続支援に努めている。法人内グループホームとの交流や移動スーパーが来るのを楽しみに待つなど、日々の生活の中で馴染みの関係が広がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士協力し合えるように、努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援をしている。	

**III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

		(自己評価) 利用者本位になるように支援し、全職員が共通認識出来るよう努力している。	
23	9	(外部評価) 職員は日々の生活の中で利用者に寄り添いゆっくり話を聞き、利用者一人ひとりの思いを受け止め大切にしている。思いや意向の把握が困難な利用者は日頃の様子で推測したり、職員が準備した中から選択してもらうなど工夫している。また、家族から情報を得るなど利用者の希望や意向の把握に努めている。	
24		(自己評価) 家族や前ケアマネからの情報を基に把握に努めている。	
25		(自己評価) 日々の記録を密にして状況の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 定期的ケアカンファレンスを行い、急なレベル低下にも随時状況に即した話し合いをするようにしている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<b>(外部評価)</b> 介護計画は今困っていることやこれまでの情報を考慮して、事業所での生活に慣れてもらうことを重要課題として作成している。3か月に1回見直しを行っている。事前に声をかけて家族の意見を聞き、職員全員参加でカンファレンスを行い利用者の思いに沿った計画書となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<b>(自己評価)</b> 日々個別記録に記入し、実践や見直しに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の要望により、適切な医療が受けられるように支援している。  (外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続している。利用者や家族の要望で往診医に移行したり、身体機能低下で家族の支援が困難になり往診医に移行する利用者もいる。皮膚科など専門医は家族対応で受診している。診療後の情報は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の体調の変化や気づきを、看護職と相談しながら適切な対応が出来るように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは情報交換や相談を行うように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については、入居時に説明し、早い時期から話し合いを行い出来る範囲の説明をしている。  (外部評価) 看取りについては入居時に事業所でできること、できないことを説明して理解を得ている。利用者の身体機能低下で車いすが必要になったとき、再度利用者や家族から看取りについて要望を聞いている。状態に応じて医師、看護師など関係者を交えて検討するなど、利用者や家族が安心して最期が迎えられるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 職員は定期的に訓練を行い、冷静に対応出来るように努力している。	
34			<b>(自己評価)</b> 災害マニュアルを作成し、定期的に訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いていく	<b>(外部評価)</b> 年に2回、台所を火元とした消火訓練・避難訓練を実施し、内1回は消防署立会いのもと実施し指導を受けている。地震対策は耐震構造の建物であるため、移動する方が危険が大きいことから1階の駐車場を避難場所としている。地域住民に参加を呼びかけているが見学にとどまっている。備蓄品として水、食料品、ガスコンロを用意して緊急時に備えている。	火災訓練を年に2回実施しているが職員だけでの対応には限界があり、特に夜間はユニット毎に職員1名の配置となっており地域住民の協力が欠かせない。運営推進会議で議題に上げて話し合うなど、地域の協力体制構築の取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援</b>				
			<b>(自己評価)</b> 排泄・入浴介助など利用者の状況に応じた声掛けを心がけ、人格を尊重した対応が出来るように対応している。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(外部評価)</b> 耳の遠い利用者には大きな声で話さず、耳元で声をかけるなど配慮している。居室に鍵をかける利用者には見守りを行い、居室で過ごしているときは静かに見守り個人の空間を大切にしている。排泄や入浴時は羞恥心に配慮した対応を心がけ、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 本人の希望を暮らしの中で自己決定出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<b>(自己評価)</b> 日々の日課の中で出来るだけ本人の自由を優先し、希望に添えるように支援している。	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 本人の好みを優先しながら、季節にあった身だしなみが出来るように支援している。	
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 食事のメニューと一緒に考えたり、野菜の皮むきや食器の片づけなど出来ることをしてもらっている。  <b>(外部評価)</b> 日頃の利用者との会話の中から好みを把握し、調理をする職員が献立に取り入れている。利用者の誕生日には希望メニューとし、筍やわらびなど季節の食材を取り入れている。また刻み食やブレンダーなど利用者の状態に合わせて食事形態に配慮している。春と秋には外食を楽しみ、調理の下ごしらえや下膳、食後の皿拭き等利用者のできることを行っている。食事は職員も一緒にテーブルを囲み、話をしながらゆっくり食べることができている。	
40	15	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 栄養バランスを考えて献立をたて、水分も無理なく取れる工夫をしている。	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後口腔ケアを全利用者に促している。1年に1回歯と口腔の健康チェックをしている。	
42				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p><b>(自己評価)</b> 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・トイレ誘導・オムツ交換をしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 排泄チェック表を記録し利用者一人ひとりに合わせて排泄を支援している。夜間のみオムツを使用するなど利用者の状態に合わせて対応している。尿・便意の改善は難しいが、声をかけてトイレ誘導してトイレでの排泄を大切に支援している。</p>	
43	16	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 便秘が及ぼす影響を理解し、献立を工夫したり、1人ひとりに合った水分確保に取り組んでいる。</p>	
44		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p><b>(自己評価)</b> 利用者の希望に出来るだけ沿うように支援している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 入浴は週に3回を基本としているが、毎日入りたい利用者にも対応できる。利用者の好みのシャンプー等を揃えている。浴室は個別浴槽でシャワーチェアを設置し利用者の体調に合わせて使用している。入浴の苦手な利用者は職員が代わって声かけやタイミングに気を配り、気持ちよくお風呂に入れるよう努めている。</p>	
45	17	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p><b>(自己評価)</b> ホームの日課ではなく利用者各自の体調や意思を尊重したケアを行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<b>(自己評価)</b> 職員は処方箋等で勉強しており、服薬の支援・症状の変化にも対応するようにしている。	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<b>(自己評価)</b> 日々の生活の中で利用者の気分転換したり、役割が見つけられるように支援している。	
48		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<b>(自己評価)</b> 出来る範囲で対応している。  <b>(外部評価)</b> 散歩や買い物に行くよう声かけするが、室内でゆっくり過ごすことを好まれる利用者が多く、出かける機会が少なくなっている。家族の協力で利用者と一緒に買い物や食事に出かけることもある。春と秋には外食に出かけたり、季節の花見に出かけている。事業所玄関に移動スーパーが来店した時は、賑やかに買い物を楽しんでいる。	
49	18	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<b>(自己評価)</b> 移動スーパーなどで買い物を楽しめるように支援している。	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<b>(自己評価)</b> 本人の希望により支援している。	
51				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 季節感や生活感を取り入れた居心地良い空間を工夫している。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(外部評価)</b> リビングは窓が大きく明るく、畳コーナーを設け家庭的な雰囲気がある。中央に調理場があり職員は全体を見ることができ、利用者は自由に行き来して安心して過ごすことができている。廊下には利用者と一緒に作成した季節の壁画やクラフトを多数飾りつけしている。また利用者のできることを見守りながら一緒に掃除を行い、清潔な環境の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<b>(自己評価)</b> 利用者同士で過ごせるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(自己評価)</b> 利用者の使い慣れた家具や物を持ち込んで本人の居心地の良い工夫をしている。  <b>(外部評価)</b> 居室は電動ベッド、エアコン、クローゼット、整理タンスが常備されている。利用者の好みの毛布やタオルケットを持参して使用し、また使い馴れたタンスや化粧水・仏壇などを持ち込み、利用者一人ひとりに合わせて配置し安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<b>(自己評価)</b> 利用者の自立を妨げないように見守りや声掛けを行う工夫をしている。	